

観智院の建築

地震の後の 1605 年に再建された観智院は、安土桃山時代（1568～1603）に出現した建築様式の傑作と考えられている。客殿の広い屋根は入口の上のカーブした破風が特徴的である。カーブした破風は日本の伝統建築物に特有な美しさを加えるもので、鎌倉時代（1185-1333）以降の寺、城、上級武士の館によく見られる特徴である。観智院のデザインは、その再建が行われた時代に発展を遂げていた書院造の寺の建築要素を組み合わせたものになっている。書院スタイルの建築物は角柱と畳が敷き詰められた床が特徴で、多くの場合、もともとは上級武士や位の高い僧侶の住居であった。